



東京都とトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）は、2018年より中堅アーティストを対象に、受賞から複数年にわたる継続的支援によって更なる飛躍を促すことを目的とした現代美術の賞「Tokyo Contemporary Art Award（TCAA）」を実施しています。

3回目の選考により、志賀理江子と竹内公太の2名を選出し、受賞者には賞金授与のほか、受賞翌年に海外活動支援を行いました。そしてこの度、3年目の支援となる「TCAA 2021-2023 受賞記念展」を、東京都現代美術館にて開催します。

本展は、受賞者それぞれの作品発表の場という枠組みを超え、展覧会タイトルの考案をはじめ、制作段階からの意見交換など、お互いに対話を重ねることで作り上げました。

また、本展開幕に合わせ、各受賞者の過去作や本展のための新作を掲載したモノグラフ（作品集）をバイリンガルで発行します。

■ 展覧会概要 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更等が生じる場合があります。

展覧会名：さばかれえぬ私^{わたくし}へ

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 受賞記念展

英語タイトル：Waiting for the Wind

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 Exhibition

出展作家：志賀理江子、竹内公太

会期：2023年3月18日（土）～6月18日（日）

会場：東京都現代美術館 企画展示室 3F（東京都江東区三好 4-1-1）

開館時間：10:00-18:00

休館日：月曜日

入場料：無料

主催：東京都、

公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーアーツアンドスペース・東京都現代美術館

ウェブサイト：<https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/>

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、市川、武智

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

■ 本展の見どころ

■ 対話から生まれた展示空間

本展は、TCAA 受賞記念展として初めて、展覧会タイトルに「さばかれえぬ私へ／Waiting for the Wind」という言葉を冠しました。この言葉は、TCAA 授賞式から始まった志賀と竹内の対話の中から生み出された、いわば本展で唯一の2人の共同作品と言えるものであり、人々が抱える内面世界への呼びかけでもあります。東日本大震災の爪痕が大きく残された宮城、福島をそれぞれの拠点として活動する両者の作品は、その方向性は違えども、対話の中で見出された共通の認識を持ち、ある部分では作品が重なり合うように展示空間を構成します。

■ 本賞の支援を経て制作された新作を中心とした作品構成

志賀は映像による新作を中心に、2011年の被災後から突如始まったあらゆる分野での復興計画に圧倒された経験を、人間が「歩く」営みとして捉え直しました。東京から三陸、青森の太平洋側先端までの沿岸部の地図を土台とし、写真や絵、メモなどが混在する大型のコラージュなど、震災後の12年間を、刻々と変化し続ける自身の内面や思考も含めて可視化することを試みます。

竹内は、リサーチを続けてきた第二次世界大戦末期の日本軍の兵器「風船爆弾」について、アメリカでの更なるリサーチを経て、風船が落ちた地面の写真を用いた、実寸大の風船による新作インスタレーションを発表します。また、2011年の震災の余波により、建物の保存が叶わなかったいわき市の劇場「三函座（みはこざ）」が解体される様子を作品とした《三函座の解体》（2013）と合わせて展示することで、本展での鑑賞体験は、アーティストが過去の出来事に憑依することで作品が生まれ、鑑賞によりその作品に憑依することで作品が成立する、過去の出来事-アーティスト-鑑賞者の「憑依の連鎖」を成すものとなります。

■ 関連イベント

■ アーティスト・トーク ※入場無料・要事前申込・先着順／日英同時通訳あり

日時：3月19日（日）14：00～15：30（開場 13:30）

出演：志賀理江子、竹内公太、キャロル・インハ・ルー（北京中間美術館 ディレクター／TCAA 2021-2023 選考委員）

モデレーター：塩見有子（特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ ディレクター／TCAA 選考会運営事務局）

会場：東京都現代美術館 地下2階講堂（江東区三好 4-1-1）

その他、各種イベントを開催予定です。

詳細は後日、ウェブサイトにてお知らせします。

■ モノグラフについて

展覧会開催に合わせ、作品画像に加え、作品や制作についての作家のテキスト、専門家による寄稿を掲載したモノグラフ（作品集）を作家ごとにバイリンガルで発行します（非売品）。

なお、モノグラフの一部を2023年3月下旬にPDFデータとしてウェブサイトで公開予定です。

■ 参加作家／略歴／作家コメント／広報用画像



志賀理江子 | SHIGA Lieko

1980年愛知県生まれ、宮城県在住。

2008年に移住した同地で、その地の人々と出会いながら、人間社会と自然の関わり、死の想像力から生を思考すること、何代にも遡る記憶などを題材に制作。東日本大震災における社会機能喪失や、厳格な自然法則による体験は、その後、戦後日本のデジャヴュのような「復興」に圧倒されるという経験に結びつき、人間精神の根源を、さまざまな制作によって追及している。

近年の主な展覧会に、「コレクション展2 BLUE」(金沢21世紀美術館、2021)、「温情の地：震災から10年の東北」(Composite、メルボルン、オーストラリア、2021)、「Reborn-Art Festival 2021-22」(牡鹿半島(小積)、宮城、2021)。

個展「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」(東京都写真美術館、2019)、個展「カナリア」(Foam写真美術館、アムステルダム、2013)など。

展覧会へよせて

制作の土台として、この2年間、宮城県美里町にあるスタジオにてさまざまな方を招き、トーク、レクチャー、ワークショップを行ってきました。生活の場でもある制作場所を開くことで、実にさまざまな体験に恵まれ、想像すらしなかった新たな出会いが沢山ありました。その経験は、2011年の震災後、大きな資本と抗うことが困難な国家の計画に圧倒され続けた、この12年間の復興を、近代の抑圧としてだけ考えるのではなく、どこかではこれまでとは違う角度から考える発想や、さまざまな道、もしくは拮抗するような力が生まれ、それぞれが密につながる可能性があるという可能性を示唆する営みでもありました。この自らの体ひとつを鏡のようにして、この時間に起こった出来事の蓄積から、展示室へ照らし返すような展示ができればと思っています。



1. 《バイポーラー》よりスチル画像 2022



2. 《バイポーラー》よりスチル画像 2022



3. 《バイポーラー》よりスチル画像 2022



4. 《バイポーラー》よりスチル画像 2022

■ 受賞者インタビュー



2021年9月に実施したインタビューを、TCAA ウェブサイトで公開しています。

参加作家／略歴／作家コメント／広報用画像



竹内公太 | TAKEUCHI Kota

1982 年生まれ、福島県在住。

パラレルな身体と憑依をテーマに、時間的・空間的隔たりを越えた活動を展開する。建築物、石碑、彫刻、公文書、郷土史家や目撃者のインタビューといった人々の記憶に触れながら、地図、ストリーミング映像、UAV カメラなどの多角的な視点で、メディアと人間との関係を探る。

近年の主な展覧会に、「MOT コレクション Journals 日々、記す」（東京都現代美術館、2021）、個展「Body is not Antibody」（SNOW Contemporary、東京、2020）、また指差し作業員*の代理人として「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」（東京都現代美術館、2019）、「ジャパノラマ 1970 年以降の新しい日本のアート」（ポンピドゥー・センター・メッス、フランス、2017）など。

*2011 年東京電力福島第一原発のライブカメラを指差した人物。竹内は彼の代理人として作品の編集、展示を代行している。

展覧会へよせて

戦時中に日本がアメリカを攻撃するため放った「風船爆弾」について、昨年その着地点のひとつをグーグルマップと米軍の文書記録から特定できました。そして、TCAA の渡航支援でワシントン州ハンフォード・サイト近くのその場所へ行きました。2022 年 9 月には、風船を放った場所のひとつである福島県いわき市で、美術館や博物館にお願いして市民の皆さんと歴史を探る散策会をしてもらいました。海を隔てた人たちとのコミュニケーション手段が発達しても、人類は兵士や爆弾を送ることを止めないことが、連日の報道で伝えられています。いま、かつて風船が飛来した地面を想像して絵を描いています。



5. 《地面のためいき》 2022、インスタレーション
撮影：川越健太



6. 《シューティング（コールドクリーク）》 2022、
写真



7. 《三函座の解体》 2013、映像インスタレーション、
33 分 23 秒



8. 《眺めの回収/風船憑依》より「アラスカ州アッツ島」
2022、紙にインク、C-プリント

受賞者インタビュー



2021 年 9 月に実施したインタビューを、TCAA ウェブサイトで公開しています。

Tokyo Contemporary Art Award (TCAA) について

本賞は、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした現代美術の賞です。

アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびバイリンガルでのモノグラフ（作品集）の作成など、複数年に渡る継続的な支援を行います。

【受賞者】

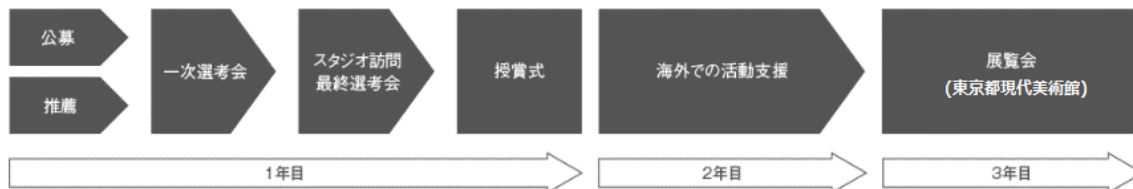
第1回	TCAA 2019–2021	風間サチコ	／	下道基行
第2回	TCAA 2020–2022	藤井 光	／	山城知佳子
第3回	TCAA 2021–2023	志賀理江子	／	竹内公太
第4回	TCAA 2022–2024	サエボーグ	／	津田道子

TCAA 2021-2023 について

【支援内容】

- 1) 賞金 300 万円
- 2) 海外での制作活動支援／上限 100 万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- 3) 展覧会実施（東京都現代美術館）
- 4) モノグラフ（作品集）の作成

【スケジュール】



【選考委員 ※肩書は 2020 年選考会実施時のもの】

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ [クンストインスティテュート・メリー ディレクター]
 住友文彦 [アーツ前橋 館長／東京藝術大学大学院 准教授]
 高橋瑞木 [CHAT (Centre for Heritage, Arts and Textile) エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター]
 キャロル・インハ・ルー [北京中間美術館 ディレクター]
 鷲田めるろ [十和田市現代美術館 館長]
 近藤由紀 [トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター
 (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長)]

【選考会運営事務局】

特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT／エイト]

同時期開催の展覧会（東京都現代美術館） ※詳細は東京都現代美術館広報担当までお問い合わせください。

企画展「クリスチャン・ディオール、夢のクチュリエ」
 コレクション展「MOT コレクション」

< お問い合わせ >

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班
 工藤・稲葉・内堀

TEL : 03-5245-1134 (直通) FAX : 03-5245-1141

E-mail : mot-pr@mot-art.jp

Tokyo Contemporary Art Award 2021-2023 受賞記念展
広報用画像申込書

Fax 番号: **03-5245-1154**

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

- 1 2 3 4 5 6 7 8 TCAA 2021-2023 ロゴマーク
 志賀ポートレート 竹内ポートレート

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他
()

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 (月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は、トリミングは可能ですが文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

広報担当: 舟橋、市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp